

新春の門出を祝う

つがる市新年祝賀会



年頭のあいさつを述べる福島市長

つがる市新年祝賀会が1月4日、松の館で開催され、市民ら約240人が参加し、盛大に新年のスタートを祝いました。

福島市長は「平成30年度の生産調整廃止など多くの課題がありますが、市議会と連携を図りながら、活力に満ちた魅力あるまちづくりに向けて全力を挙げて取り組んでまいります」と年頭のあいさつを述べました。

祝賀会には多くの来賓も出席し、代表して三橋一三県議会議員が祝辞。宮本純一商工会長の発声で乾杯を行い、出席者は新年のあいさつを交わしていました。

また、ステージでは童謡「蕾の会」による合唱や、つがる市PR動画の映写が行われ、参加者を楽しませていました。

おいしい県産米ナンバーワンに輝く

柏桑野木田の神茂さんと木造川除の菊地靖さんが、品種ごとに県産米の食味ナンバーワンを決める平成28年産「あおり旨い米グランプリ」に輝きました。これは、県産米のさらなる評価向上に向けて県が主催しているもので、今年が2回目。県内各地から出品された3品種計119点を対象に食味審査などが行われ、神さんは「青天の霹靂」、菊地さんは「つがるロマン」の部で1位の栄冠を手に入れました。

12月26日、2人は市良食味米生産研究会の長内清悦会長らと福島市長を表敬訪問し、受賞の喜びを報告。福島市長は「皆さんの活躍が市内農家の励みになります。これからもおいしいコメを作ってください」と激励していました。



左2人目から神さん、菊地さん、長内会長

今年一年の交通事故皆無を祈願

つがる地区交通安全協会（片山徳明会長）が1月5日、今年一年の交通事故ゼロを目指して、木造地区の三新田神社において交通安全祈願祭を行いました。

祈願祭には福島市長をはじめ、つがる警察署、つがる地区安全運転管理事業主会、安全運転管理者協会、交通安全母の会連合会、地区交通指導隊などの代表者ら25人が出席。祝詞奏上の後、参加者は玉串をささげ交通安全を祈願しました。

最後に片山会長が「皆さんの普段の活動が交通事故の防止・抑止力につながります。関係機関が手を携えて、事故の無い安心安全なまちづくりを目指してがんばっていきましょう」とあいさつしました。



交通安全を祈願する片山会長

人と人のつながりを大切に 木造コミュニティ祭り

木造コミュニティ実行委員会（白戸英行会長）が主催する恒例の「木造コミュニティ祭り」が1月9日、木造農村環境改善センターで開催され、約50人の会員が交流の輪を広げました。

大会議室ではニチレクボールが行われ、6組に分かれて熱戦を展開。お互いのプレーを褒め合い、笑い合いながら試合を楽しんでいました。他にもトランプ大会や新年交流会が行われ、参加者は互いに親睦を深めていました。

白戸会長は「人口減少や長寿化が進む中、地域のつながりが大切。一人ひとりの趣味が多様化して家から出たがらない人も多いが、そんな人たちも引き込んでいけるよう活動を続けていきます」と抱負を述べていました。



ニチレクボールを楽しむ参加者

大人の発達障害を学ぶ ころを学ぶ家族教室

大人の発達障害について学ぶ機会にしようと「ころを学ぶ家族教室」が1月20日、松の館で開催され、障害に悩む家族や関心のある市民らが、発達障害についての理解を深め、向き合い方を考えました。

教室では、県発達障害支援センター「わかば」(つがる地域)の大橋一之センター長が「大人の発達障害」と題して、脳のはたらきから見る発達障害の特徴や障害がある方への有効な支援方法などについて講話。大橋さんは「聞くことや想像することなど苦手も多いが、図に書いて視覚的に伝えるなど周囲のサポートにより、苦手を補うことができる。そうやって成功体験を積ませることが大切です」などと呼びかけていました。



参加者へ語りかける大橋センター長



講演する長久保代表

売れる野菜作りで地域活性化

12月21日、松の館で「つがる市農業活性化フォーラム」が行われました。これは、農業に意欲的に取り組む担い手が一堂に会し、売れる野菜作りへの意識を高めようと開催されたもので、はじめに市農業士会の稲葉光省会長が「消費者や販売先のニーズを踏まえた、地域ぐるみの販売戦略を構築しましょう」とあいさつ。その後、農業生産組織「アグリネット21」代表の長久保耕治さんが「仲間とともに売れる野菜作りで地域農業を活性化しよう」と題し、市場委託から契約栽培へ移行した経緯など自らの取り組みを講演。長久保氏は「個々の経営体としての意識向上のため、定期的な情報交換や組織を超えた情報交流が必要」などと話していました。

つがる市の昔話と文学を後世へ

1月21日、森田公民館で「つがる市の昔話と文学」と題し公民館公開講座が開催され、約50人の市民らが参加しました。

講師に日本口承文芸学会会員の佐々木達司さん(稲垣町出身)を迎え、つがる市の昔話「十三湖のばば」「北の海の白い十字架」などの名作が生まれた背景などを講演。佐々木さんは「自分自身、祖母から聞く昔話は何よりの楽しみで、そのときに聞いた昔話が文学への関心に影響している。つがる市出身の竹内俊吉氏や北沢徳太郎氏などが、大正から昭和にかけて多くの昔話を書き残しているなど、先人が昔話の文化を大切にしていたから県内で一番多くの昔話がある事に繋がっている。この地域の文化を若い人達に伝えていかなければ」と話していました。



昔話の背景などを伝える佐々木さん



トレーニングする参加者

ジュニアランニングクラブが合同練習会

市ジュニアランニングクラブ(栗林輝生監督)が1月21日、柏総合体育センターで小・中学生を対象とした合同練習会を開催しました。同クラブは平成25年3月に発足。県駅伝競走大会の成績向上のため、特に中学生区間の選手強化・育成を目指して活動を続けています。

練習会には市内各地から約40人の小・中学生が参加。トレーニングインストラクターの渋谷直寿さんの指導のもと、効果的なウォーミングアップ方法や速く走るための正確な足の運び方などを学びました。渋谷さんは「大会で無意識に正しい動きをするためには、普段から正確に前へ進むことを意識して生活しましょう」と話していました。